くりでんアレコレ

伝プロジェクト 第2号 修繕庫編

2025年7月18日発刊

くりでん職員の安全意識

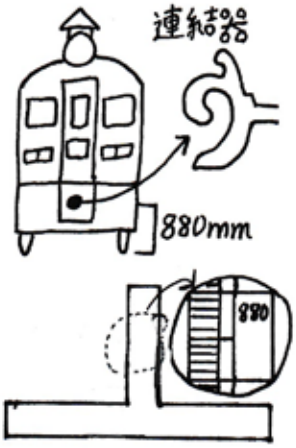
どうも、こんにちは！くりでんミュージアム学芸員のゲンマイです。今回は修繕庫の中から、くりでんが100年近くも走り続けられた理由の1つを考えていきます。くりでんが1918年から2007年まで走り続けられた理由の1つ、それは職員一人ひとりが持っていた安全意識です。「くりでんに乗ったお客さんを事故なく安全に送り届けよう！」という、くりでんで働いていた人々の想いを見つけてみましょう。

無事故祈願旗

宮城労働基準協会の瀬峰支部から、毎年1つずつ配られていました。くりでんからは、総務の職員が取りに行っていました。

計測器

車両に付いている連結器の高さを測るために使われました。連結器の高さは、レール面から880mmと決められ、正しい高さに付いているかチェックされました。



旋盤（工作機械）

たくさん走って、すり減った車輪を削って滑らかにするための機械です。鉄道が走っているときのガタガタとしたゆれを減らし、安全に走らせるため、とても慎重に作業をしていました。

不定期コーナー 今につながる〇〇

お題：安全意識

鉄道がなくなって18年、公園化された今のくりでんミュージアムでも、安全意識は存在しています。毎年4月、現役時代と同じように若柳平野神社に依頼し、安全祈願を行っています。かつて、くりでんで働いていた方々の安全意識は、今でも脈々と受けつがれ、今につながっているのです。

職員Kさん

すべての作業において、軽率な行動は許されない。高所での作業は、瀬戸内海の橋の上で作業するような意識で、安全のためにも絶対に物を落とさないという気持ちで、常に作業をしていた。

2025年4月5日に行われた安全祈願

次回予告

くりでん職員の安全意識 パート2